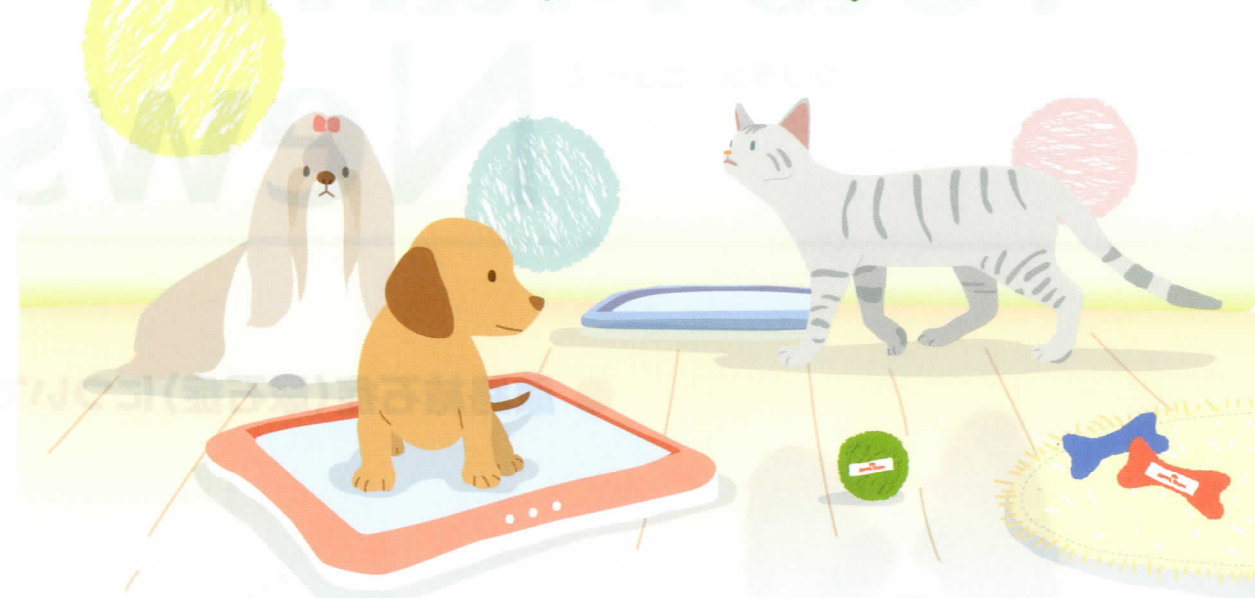


尿路結石症(尿石症)について

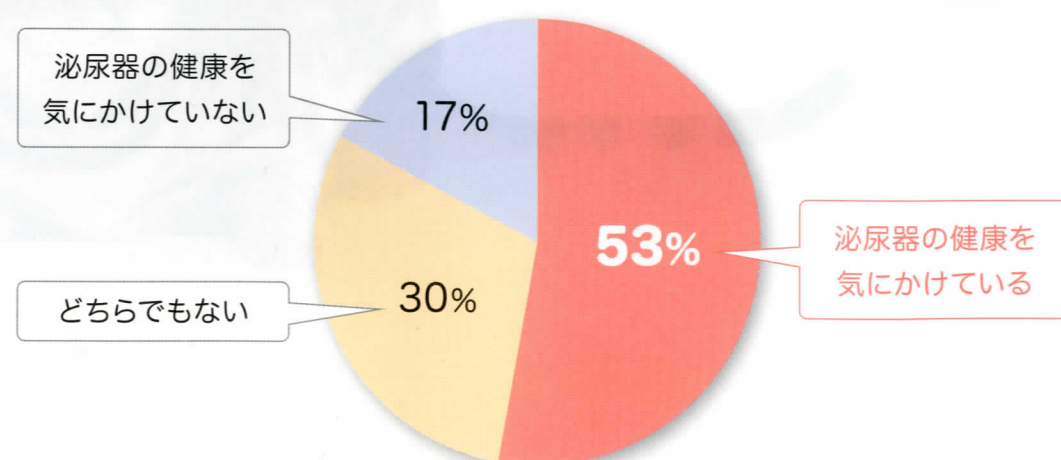


11月10日はトイレの日※1というのをご存知でしょうか？

今回はトイレの日にちなんで、おしっこに関する“泌尿器疾患”について、そのなかでも特に尿路結石症(尿石症)のお話をします。

愛犬・愛猫が、泌尿器疾患にかかったことがない方は、ピンと来ないかもしれませんが、ワンちゃんの病気の発生率のなかでは第6位、ネコちゃんではなんと第1位にランクインしており、実に多い病気です※2。泌尿器疾患に今までかかったことのないネコちゃんの飼い主さんでも、半数以上の方が泌尿器の健康を気にしていられるようです※3。

泌尿器疾患にかかったことのないネコちゃんの飼い主様への調査 ※3



※1：日本トイレ協会が1986年に制定

※2：アニコム家庭動物白書2013より10歳までの合計

※3：2014年ロイヤルカナン調べ

尿路結石症はなぜ多い？

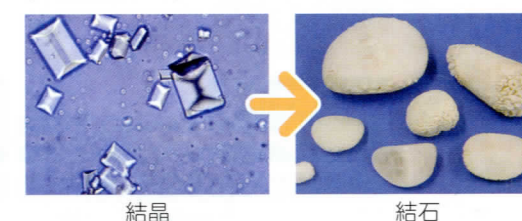
ネコちゃんはもともと尿石を作りやすい動物といえます。



ネコちゃんの祖先であるリビアヤマネコは、砂漠のような乾燥地帯で生活していました。そのため、ネコちゃんの体は水分摂取量が少なくても体の水分を保てるよう、少量で濃いおしっこをつくるようにできています。ネコちゃんのおしっこが濃くてにおいが強いのはそのためです。

おしっこが濃い状態では、尿石の材料となるミネラル分などが濃縮されて、溶けきれず結晶となり、さらに結晶がくっつき合うことで尿石が形成されやすくなります。

【ストルバイト(リン酸アンモニウムマグネシウム)】



ワンちゃんの場合は犬種によって、発生率が異なります。

ワンちゃんの場合、全犬種の中での病気の発生率は6位ですが、実はその多くが小型犬種での発生です。小型犬に発生が多い要因としては、遺伝や大型犬に比べ飲水量が少ないことが挙げられます。また小型犬は室内飼育されることが多いため、おやつをもらう機会が多いこと、膀胱に長くおしっこがたまった状態になりやすいこと、運動不足になりやすく飲水量がさらに少なくなりやすいことなどから、尿石ができやすい環境になりがちです。

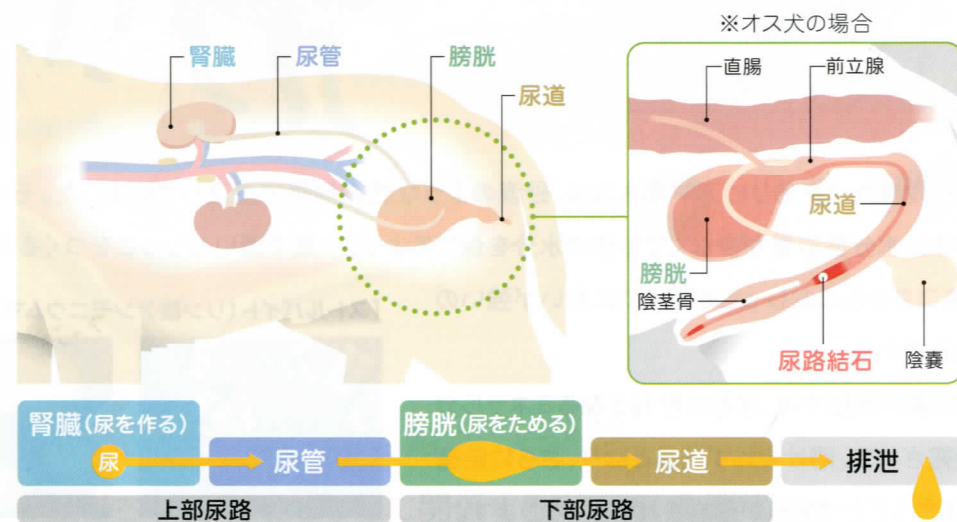
【尿路結石症の発生が多い犬種】



(2008～2010 ロイヤルカナン調べ)

尿路結石症ってどんな病気？

腎臓で作られたおしっこは、尿管を通り、膀胱にためられたのち、尿道を通して排泄されます。尿路結石症は、この尿の通り道において尿中のミネラル分などが溶けきれずにくっつきあい、砂や石のような物質ができてしまう病気です。尿路結石ができると、ワンちゃん・ネコちゃんはおしっこの時に痛がったり、血尿が出たりします。尿路結石がつまって完全におしっこが出なくなると、一刻も早く処置をしないと命にかかわることもある病気です。



尿路結石の種類

尿路結石は、原因となるミネラル成分によって、種類が異なります。特にストルバイトとシュウ酸カルシウムが二大結石と呼ばれ、発生の90%を占めると言われています。



こんな症状なら尿路結石症かも？

尿路結石症は、排尿の様子やおしっこの色など、飼い主さんの見た目にも変化が表れやすい病気です。日頃からおしっこの色や排尿の頻度などを気にしておくといでしょう。

- ☐ 頻繁にトイレに行く。
- ☐ トイレ以外の場所で排泄する。
- ☐ おしっこの色が濁っていたり、血が混じっている。
- ☐ 排尿の姿勢をとってもなかなか出ない、量が少ない。
- ☐ うめいたり、踏んばったりしながら、排尿する。



こんな症状が出たら緊急！

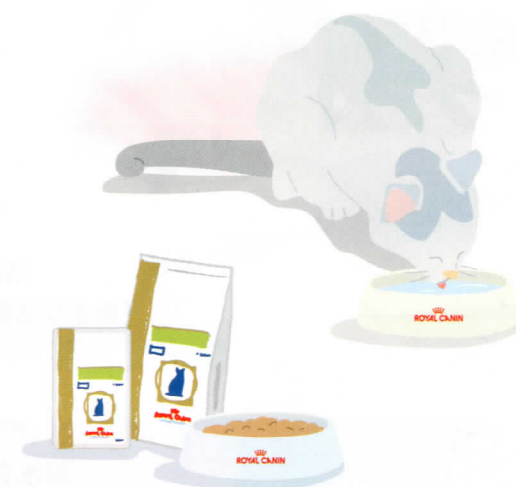
- ☐ これらの症状に加え、食欲がない、または吐く。
- ☐ おしっこが全く出ない。
- ☐ お腹のあたりに触れると嫌がる、または硬いものに触れる。

尿路結石症にならないようにするためには

尿路結石症になってしまうと、継続的な通院や投薬が必要になり、ワンちゃん・ネコちゃんにも、飼い主さんにも負担となることが少なくありません。ですから病気にならないための予防がとても大切です。また、すでに尿路結石症になったことのあるワンちゃん・ネコちゃんは、再発防止を心がけましょう。幸いなことに尿路結石症の予防は、日々の生活のなかのちょっとした工夫でできるものばかりです。

① 水を飲ませるように工夫する

水を飲む容器を増やしたり、こまめに新鮮な水に取り変えてあげたりするだけでも飲水量は増えます。「うちの子はもともと水をあまり飲まないの」とお話しされる飼い主さん多いかもしれませんが、“流水が好き”“お風呂場の水が好き”“陶器の器で飲むお水が好き”など、好きな水の飲み方を見つけることで、水分摂取をうながすこともできます。また、直接水を飲ませる以外にも消化のよいフードを与えたり、ドライフードにウェットフードをトッピングする方法もあります。



② いつでもトイレができるように工夫する

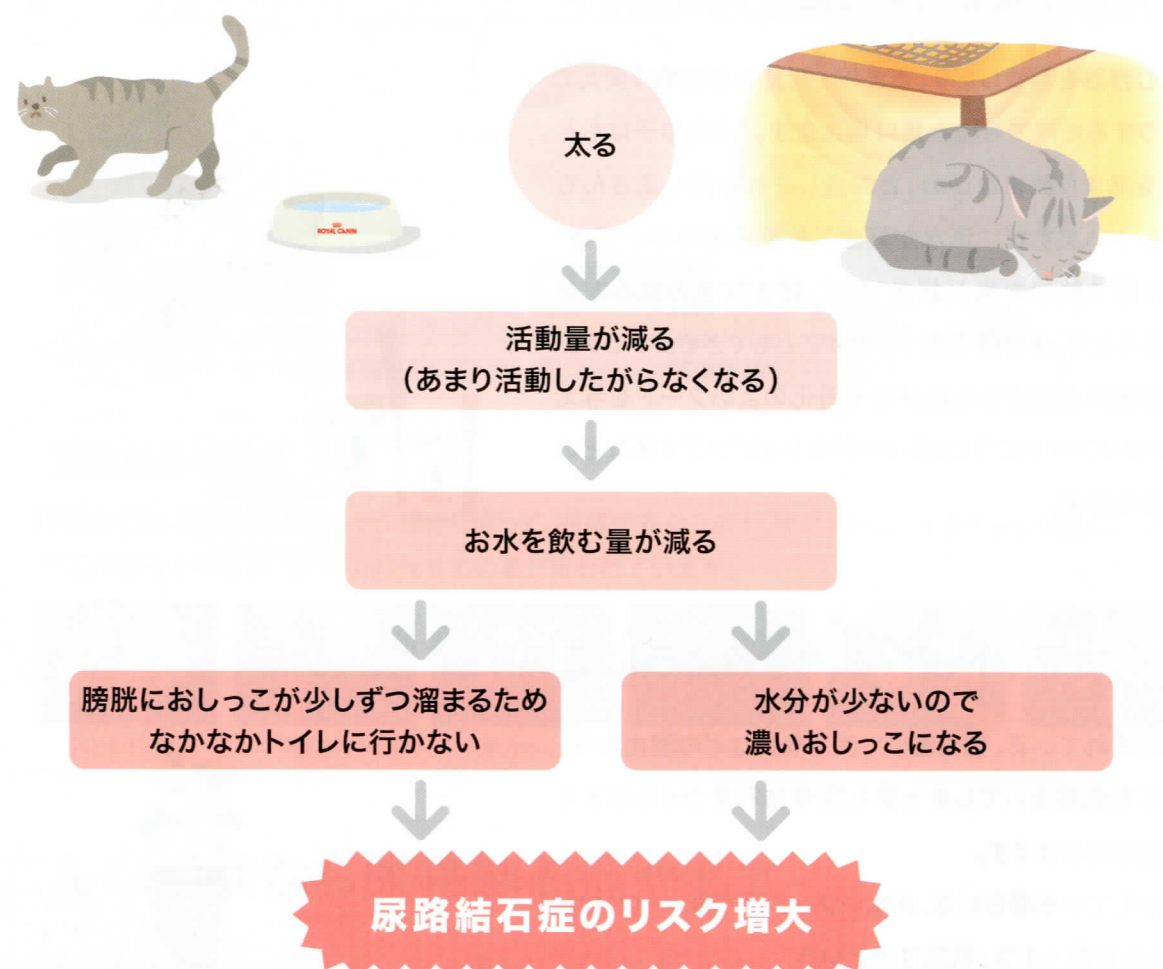
トイレが汚れている、落ち着いて使えないなどの理由から、おしっこを我慢してしまう事も尿路結石をつくりやすくする原因のひとつです。多頭飼いしている場合には、お水やフード用の器、トイレなどを「ペットの数+1つ」用意するという「+1ルール」というものが推奨されています。特にネコちゃんの場合はもともと、他のネコちゃんともを共有することを好まない動物なので、トイレを「+1」用意してあげることによって、ストレスなく、いつでも自由に使用できるようにしてあげましょう。



③ 太らせないようにする

おやつの中にはミネラル分が多く含まれているものもあるため、尿石を作る材料となってしまうので、控えましょう。下の図にもあるように、太ってしまうと濃いおしっこが長く膀胱にたまった状態になりやすく、尿石ができるリスクが高まります。こまめに遊んであげたりキャットタワーを使用してみたりするなどして、運動量を増やしてあげるのもおすすめです。

また、太りやすくなる要因の一つに避妊・去勢手術があります。避妊・去勢によって健康で長生きできることが報告されていますが、太らせてしまっては台無しです。手術後は特に太らせないように気をつけましょう。



これから、“猫はこたつで丸くなる” 季節がやってきます。そしてそれは尿路結石症で来院するペットが増えるシーズンでもあります。寒くなると身体を動かさなくなったり、暖房効率のために部屋を閉め切って活動範囲が狭まるなど、より運動量や飲水量が減ることがその一因といわれています。11月10日のトイレの日を良い機会に、愛犬・愛猫の水飲み場やトイレを工夫してみてもいいかもしれません。飼い主さんのちょっとした気遣いや生活環境の見直しで、尿路結石症のリスクを下げるができます。

フォトランド Photo land

かわいいペットを撮って、自慢しちゃおう！



高知県 和田様/パイルちゃん



大阪府 高倉様/ハッピーちゃん



山梨県 宮崎様/(左から)雄ちゃん、ナッキーちゃん



あなたの自慢のペットの写真を撮って、投稿してください！

【送付先】 〒175-0062 東京都世田谷区南烏山3-23-7 芦花パークヒル3-1階 ベッツプラン™サービス
Tel: 0120-76-1012 / Fax: 03-3308-9122 (受付時間: 9:30~18:30 / 定休日: 日曜・祝日)